

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【北海道羽幌町】

実施報告書
(概要版)



北海道羽幌について

羽幌町は、北海道北部の日本海側、留萌管内のほぼ中央に位置し、沖合いには、天売島と焼尻島のふたつの島を有する町です。

天売島は、人と海鳥が共生する島、焼尻島は緑と花の島で、「暑寒別天売焼尻国定公園」に指定されています。

日本一の漁獲量を誇る甘えび、ウニといった海産物、グリーンアスパラやねばりながいもなどの農産物、潮風を受け豊富なミネラルを含んだ牧草を食べて育った焼尻めん羊など、豊富な資源に恵まれた自然豊かな町です。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月5日午前9時に、北海道北西沖を震源とするM7.8の大規模な地震が発生、羽幌町では震度6強を記録。地震発生直後から大津波警報が発表され、羽幌の沿岸地域では、最大4.4mの津波が押し寄せ、家屋流出や浸水等の被害が発生した。羽幌町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し消防スピーカー等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成28年11月5日（土）09：00～12：00

シェイクアウト訓練、津波避難訓練	09：00～09：40
情報伝達・避難誘導	09：00～09：40
防災関連装備品等の展示	10：00～11：50
防災講話	10：10～11：00
炊き出し訓練	11：00～11：50
訓練講評・閉会式	11：50～12：00

■主催：内閣府、北海道、羽幌町

■参加者数：約1,400名（※防災関係機関等を含む）

■参加機関：町内会、気象台、海上保安庁、陸上自衛隊、警察、消防、羽幌消防団、羽幌町赤十字奉仕団、羽幌町防災ボランティアきずなの会、NTTドコモ北海道支社、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社ムラカミ

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

町内全域において、自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練、川北・浜町・港町・川南の津波浸水予想地域で、「自助」と相互に助け合う「共助」の取り組みに重点を置いた緊急指定避難場所までの津波避難訓練を行い、発災から津波襲来までの避難行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:00～ 防災関連装備品等の展示

羽幌中央公民館において、関係機関が、災害対処用の車両や装備品を展示・説明し、館内では、防災関連企業による防災用品等の展示・紹介及び警察や気象台が写真・パネル展示を実施して、訓練参加者は見学により新たな知識の向上を図った。

▼車両等の展示



▼企業展示ブース



10:10～ 防災講話

羽幌中央公民館大ホールにおいて、旭川地方気象台及び防災コンサルによる地震・津波の概要及び避難所での生活等について講話を実施するとともに、研修室において、北海道庁により子供向けに地震・津波について教育するなど、住民の防災意識高揚を図った。

▼気象台講話



▼子供向け防災講話



11:00～ 炊き出し訓練

羽幌中央公民館において、陸上自衛隊がカレーライスを調理して、日赤奉仕団が配膳・配食を行い、その連携要領を確認するとともに、訓練参加者に配食し、災害時の炊き出し訓練として、体験喫食した。

▼炊き出し配食



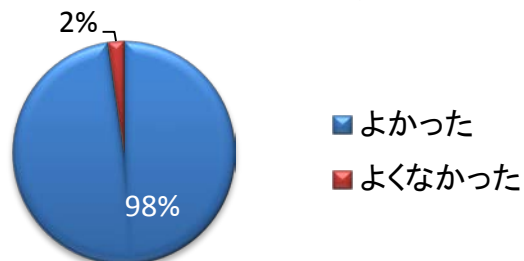
▼体験喫食



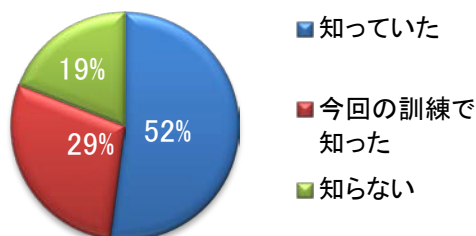
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：215人）

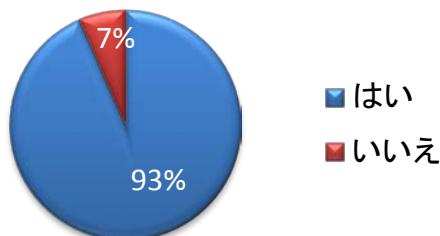
問 地震・津波防災訓練に参加してどう思いましたか（回答数：215人）



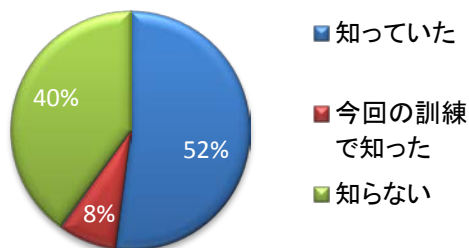
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか（回答数：215人）



問 地震がきたら、まず高いところへ逃げようと思いましたか（回答数：215人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか。（回答数：215人）



訓練の評価

訓練当日は、雪が降る悪天候の中、町民全員を対象としたシェイクアウト訓練の後、北るもい漁協、フェリーターミナルの職員や地域住民を合わせ137名が津波避難訓練に参加した。また、10:00から中央公民館で町民約250名、防災関係機関等の要員約150名の合計約400名が、防災講話や炊き出し及び災害装備品の展示に参加し、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組み防災意識を向上させた。

訓練実施後、内閣府・北海道・羽幌町長の挨拶・訓練講評、参加者のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

この結果、「大変よい訓練だった」、「避難要領が確認できた」という評価の一方で、次のような課題を認識した。

●羽幌町は、防災行政無線が整備されていないことから、消防署のサイレン、

広報車等を使って津波警報を伝達したが、いずれも音が小さかったという意見から、有効な伝達手段・要領を再整備すること。

●当日は悪天候のため、訓練参加者が減少した可能性はあるものの、更に沢山の町民を参加させるべきとの意見から、引き続き町民の防災意識を高揚・啓蒙する防災施策の充実を図ること。

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【秋田県にかほ市】

実施報告書
(概要版)



秋田県にかほ市について

にかほ市は 平成17年10月1日、仁賀保町、金浦町、象潟町の三町が合併し誕生した人口25,818人（H28.3月末）、面積240.67平方kmのまちです。鳥海山の山すそが海岸近くまで延び、海岸部の平野部に人口が集中しています。

気候は、秋田県内では春の訪れが最も早い温暖な地域として知られ、降雪量も最も少ない地域です。

豊かな自然と歴史・文化遺産に支えられた「観光」、日本海の恵みを生かした「漁業」、電子部品を主体とするハイテク産業が集積する「工業」と、豊富な資源に恵まれたにかほ市は、伝統ある文化と最新の技術がバランスよく共存するまちです。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月4日午前10時35分に、日本海中部、秋田県沖を震源とするM8.7の海溝型連動地震が発生し、にかほ市では震度6強の揺れを観測した。この地震により、仙台管区気象台は10時35分、秋田県沿岸部全域に大津波警報を発表。津波の高さは、高い所で10mを超えると予想される。

- 実施日時：平成28年11月4日（金）10：35～12：05

シェイクアウト訓練	10：35～10：40
津波避難訓練	10：40～11：10
情報伝達訓練	10：35～11：10
避難行動要支援者名簿を活用した避難訓練	10：40～11：10
避難所ガイドアプリを活用した避難訓練	10：40～11：10
出前講座	11：10～11：40
キャラクターによる啓発活動	11：45～11：50
閉会式	11：50～11：56
物資配給訓練	11：15～12：05

- 主催：内閣府、にかほ市

- 参加者数：約1,450名

- 参加機関：町内会、自主防災組織、小・中学校、気象台、仁賀保高等学校、ヤマト運輸

当日の訓練内容

10:35～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼象潟小学校



▼妙見町



10:40～ 津波避難訓練

防災行政無線による避難指示の一斉放送を合図に、妙見町・荒古屋地区の住民及び各小・中学校の児童・生徒は、にかほ市津波避難地図のとおり、津波避難場所に避難した。避難にあたっては、要支援者名簿を活用した避難訓練も行われた。

▼校舎屋上



▼避難行動要支援者の避難



11:10～11:40 出前講座

仁賀保高校生自主防災会は、小学1～3年生を対象とし、防災クイズ等を行い、また、秋田地方気象台は、一般市民及び小学4～6年生を対象とし、津波避難啓発用のアニメ等を活用して小学生にも分かり易く説明し防災意識の高揚を図った。

▼仁賀保高校生による講座



▼気象台による講座



11:45～12:05 キャラクターによる啓発活動・物資配給訓練

にかほ市公認キャラクター「にかほっぺん」と仁賀保高校生が避難ポーズを共同で教え、啓発活動を行った。

最後に、市の物資集積拠点から協定業者により運搬されてきた防災啓発用品が訓練参加者に配給された。

▼高校生とキャラクターによる啓発活動



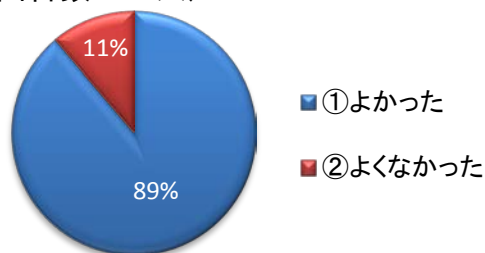
▼物資配給訓練



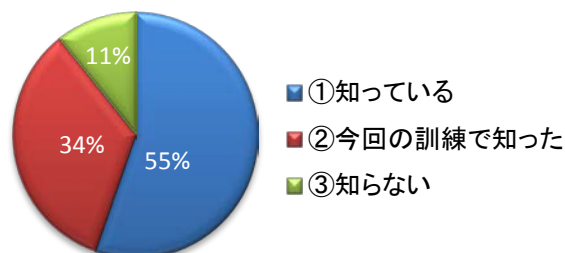
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：47人）

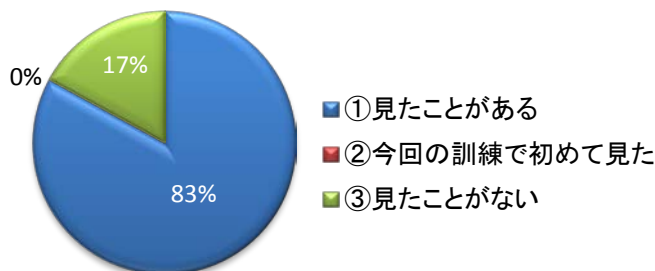
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：45人）



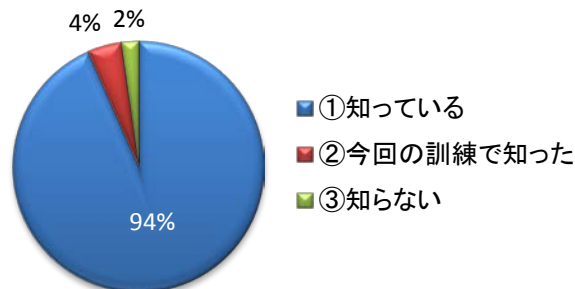
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：47人）



問 津波ハザードマップを見たことがありますか？（回答数：47人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか？（回答数：46人）



訓練の評価

訓練当日は、吹きつけるような雨にも拘らず、妙見町・荒古屋地区住民約50名、各小・中学校の児童・生徒等約1,400名の合計約1,450名が、熱心かつ我慢強い態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、訓練講評、職員等の所見、参加者のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

11月5日が「津波防災の日」であることを「今回の訓練で知った」は、市民34%に対し、小学校4～6年生は93%であったことから小学生の訓練参加の成果は大きかったといえる。一方で、次のような課題があることが認識された。

- 要支援者への避難支援行動は適切に行われていたものの、妙見町・荒古屋地区の訓練参加者全員が60歳以上という老人世帯が多い状況を考慮すると、住民相互の支援態勢を強化する必要がある。
- 二人体制で要支援者の避難を支援していたが、階段や段差がある場合には、三人体制での支援が必要である。

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【神奈川県茅ヶ崎市】

実施報告書
(概要版)



神奈川県茅ヶ崎市について

茅ヶ崎市は、神奈川県の中南部、東経139度24分、北緯35度19分に位置し、東京から西に50キロメートルあまり、東は藤沢市、西は相模川をはさんで平塚市、南は海岸線約6キロメートルに及ぶ相模湾、そして北は寒川町と接しています。面積は35.76平方キロメートル、東西6.94キロメートル、南北7.60キロメートルで、周囲は30.46キロメートルに及んでいます。

気候も四季を通じて温暖という環境から、明治から昭和初期にかけては湘南の別荘地、保養地といわれてきました。こうした自然に恵まれた住みよい条件のなかで、昭和22年10月、神奈川県下で8番目の市として市制を施行し、昭和30年4月には旧小出村との分村合併により現在の市域となりました。その後、東京、横浜への交通の利便性や恵まれた自然環境を背景に急激な都市化が進み、平成元年12月に県下で7番目の20万都市に発展しました。



地図出典：国土地理院

参照：茅ヶ崎市ホームページ

訓練概要

- 訓練想定：11月5日09:30に相模湾沖を震源とするマグニチュード8.2の大地震が発生。気象庁は、「相模湾・三浦半島」に大津波警報を発表した。震度6強の揺れに見舞われた茅ヶ崎市では、いたるところで道路が損壊、民家のブロック塀等が倒壊し、通行が困難の様相である。
- 実施日時：平成28年11月5日（土）09:30～12:00
 - 第1部 安全確保訓練及び津波避難対策訓練 09:30～
 - 第2部 避難所活動訓練（応急救護、防災講話等）10:00～
- 主催：内閣府、茅ヶ崎市
- 参加者数：約5,000名
- 参加機関：浜須賀地区まちのちから協議会、津波一時退避場所協定締結施設、浸水想定地域内の公立小中学校、消防署・消防団、茅ヶ崎市立病院、茅ヶ崎警察署、茅ヶ崎地区交通安全協会、サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ、日本サーフィン連盟茅ヶ崎支部、海上保安庁湘南海上保安署、横浜地方気象台、陸上自衛隊第4施設群

当日の訓練内容

09:30～ 安全確保訓練

地震の揺れから身を守る安全確保訓練を、訓練参加者の自宅や海岸、各学校施設等で行い、緊急地震速報認知時や発災時の行動について確認した。

▼市役所での行動



▼浜須賀小での行動



09:32～ 津波避難訓練

訓練対象地域内住民の一時退避場所への避難行動、茅ヶ崎海岸からの避難誘導を実施。住民各人による退避場所、避難経路についての確認や海岸からの避難誘導要領の確認が行われた。また、汐見台小学校などでは、児童の上層階への避難行動が行われた。

▼海岸からの避難



▼浜須賀小への避難



10:00～ 避難所開設・応急救護

浜須賀小学校に避難所を開設し、避難者の受け入れを行った。また、自主防災組織・市立病院・消防による応急救護訓練を実施して、トリアージ等を含む災害医療の要領について、参加住民の理解を深めた。

▼避難者受付



▼応急救護活動



11:05～ 防災講話等

気象庁職員による津波防災講話を通じて、津波の基礎知識及び身の守り方に関する理解を深めた。講話終了後、避難者に対しての物資配給訓練、自衛隊の協力による炊き出し訓練が行われた。

▼防災講話



▼炊き出し訓練

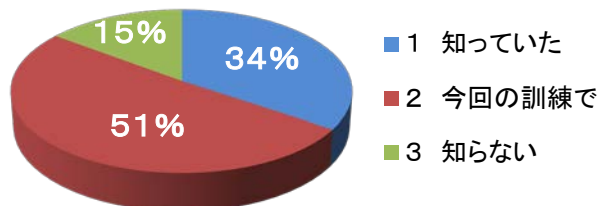


アンケート結果

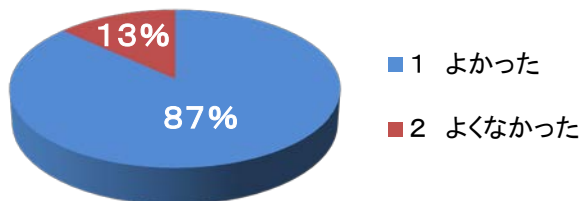
住民の方々の地震・津波対策に関する意識や取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：299人）

問 1 1月5日が「津波防災の日」であることをご存じでしたか？

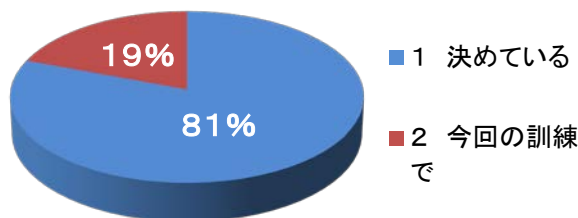
（回答数：299人）



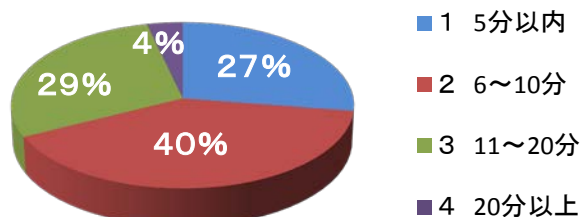
問 地震・津波防災訓練に参加してどう思いましたか？（回答数：287人）



問 日頃から津波の避難先を決めていますか？（回答数：285人）



問 大津波警報から避難先に避難するまで何分かかりましたか？（回答数：219人）



訓練の評価

訓練当日は、天候にも恵まれ、小・中学校の児童や生徒、茅ヶ崎海岸のサーファー、浸水想定地域内の住民並びに市職員や関係機関を合わせ、約5,000名が、終始熱心かつ真剣に地震・津波避難訓練に取り組んだ。

避難訓練に引き続き、浜須賀地区住民の参加を得て、浜須賀小学校において避難所活動訓練（応急救護訓練、防災講話、物資配給訓練、炊き出し訓練等）が実施された。

以上の訓練結果と避難所活動訓練に参加した地域住民のアンケート調査結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

この結果、「津波に対する正しい理解のもと、防災に関する意識が高まった」という評価の一方で、「今回の避難所活動訓練は、応急救護訓練の見学や防災講話、来賓挨拶主体の構成であり、住民参加型の訓練方式も検討して欲しい。」という意見もあった。

また、地震発生後の5分後に津波が到達するという想定に対し、『5分以内に避難先に避難できたという住民は約27%』であり、住民個々の避難場所選定上の課題も明らかになった。

平成 28 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【新潟県佐渡市】

実施報告書
(概要版)



新潟県佐渡市について

佐渡市（さどし）は、新潟県西部に位置し、佐渡島全域を市域としています。

人口は約56,000人、総面積約856km²であり、山地が南北に2列あり、海に囲まれていることから、豊かな自然環境に恵まれ、農業・漁業・観光産業がさかんです。

佐渡市では、昭和39年の新潟地震において、両津で高さ2.0メートルの津波が発生し、両津市で400戸近くが浸水しました。

過去の経験から、現在佐渡市では、毎年佐渡市全域を対象に、多数の関係機関が参加する総合的な防災訓練をはじめとして、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：平成28年11月6日（日）午前9時00分、新潟県北方沖を震源とする強い地震が発生し、佐渡市全域を激しい揺れが襲い、最大震度6強を観測した。また、佐渡市沿岸には大津波警報が発表された。佐渡市は各関係機関に応援協力要請を行うとともに、速やかに避難所及び救護所を設置し、避難住民の受入れを開始した。

- 実施日時：平成27年11月6日（日）9：00～12：30
 - 市民参加訓練（シェイクアウト訓練、津波避難訓練など）9：00～10：30
 - メイン会場での訓練9：00～11：40
 - 体験型・展示型訓練9：00～12：15

- 主催：内閣府、佐渡市

- 参加者数：4,936名（※参加機関を含む。）

- 参加機関：佐渡市、陸上自衛隊第30普通科連隊、航空自衛隊佐渡分屯基地、自衛隊新潟地方協力本部佐渡駐在員事務所、国土交通省北陸地方整備局、気象庁新潟地方気象台、第九管区海上保安本部新潟航空基地、佐渡海上保安署、東京税関新潟税関支署佐渡監視署、佐渡西警察署、佐渡東警察署、新潟県消防防災航空隊、新潟県ドクターヘリ、新潟県佐渡地域振興局、入間市、国分寺市、佐渡市社会福祉協議会、東北電力株式会社佐渡営業所、東日本電信電話株式会社、(株)ドコモCS、KDDI(株)北関東総支社、新潟県赤十字安全奉仕団佐渡市分団、佐渡市赤十字奉仕団、佐渡市消防団、各自主防災会、新潟県厚生連佐渡看護専門学校、新潟県建設業協会佐渡支部、新潟県LPガス協会佐渡支部、佐渡管工事組合、佐渡市下水道管路災害支援協会、あいびすアマチュア無線クラブ、ジャール南佐渡クラブ、NPO法人コメリ災害対策センター、コカ・コーライーストジャパン(株)佐渡支店、高坂防災(株)佐渡営業所、(有)コンドーシステム、(資)小松屋商店

事前ワークショップと当日の訓練内容

防災ワークショップ

訓練に先立ち、平成28年9月8日に、防災訓練に向けた住民への防災意識の向上を目的に、防災ワークショップを行った。前半は新潟地方気象台による津波に関する講義、後半は、津波ハザードマップを用い、安全な場所への避難、避難障害の有無、避難に向けた対策などについて議論した。

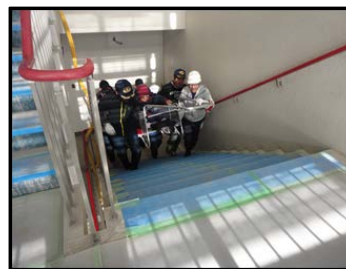
▼防災ワークショップの様子▼



09:00～10:30 市民参加訓練（シェイクアウト訓練、津波避難訓練）

佐渡市内の住民や関係機関が「自助」の備えとして、シェイクアウト訓練を実施した。各沿岸地域の自主防災会が指定している津波避難場所への避難訓練を行った。また、津波避難訓練後、要援護者の安否を市へ連絡する訓練も実施した。

▼津波避難訓練



▼避難行動要支援者安否確認訓練



9:00～11:40 メイン会場での訓練

防災訓練メイン会場（両津港おんどこドーム周辺）にて、倒壊家屋救出訓練や、市街地建物火災消火訓練、救援物資輸送訓練など、計9訓練を行い、参加関係機関間の緊密な連携を目的とした訓練を実施した。

▼倒壊家屋救出訓練



▼海上救出訓練



9:00～12:15 体験型・展示型訓練

一般の来場者向けに、起震車の試乗体験や、はしご車試乗体験、濃煙体験、応急手当講習会などの体験型訓練や、災害特殊車両や消防車、カメラ車を展示することで、住民に向けて防災意識の向上を促した。

▼はしご車試乗体験



▼災害特殊車両の展示

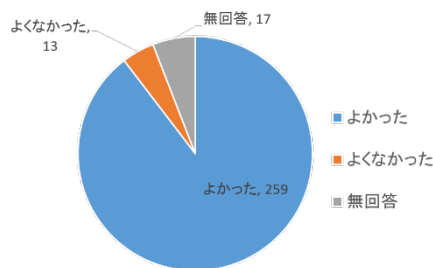


アンケート結果

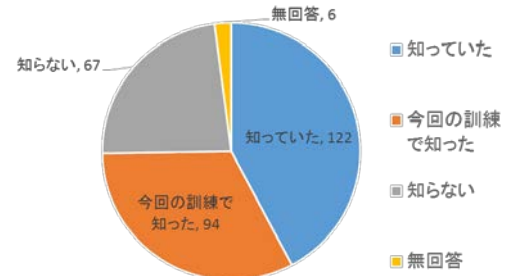
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取り組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：289人）

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

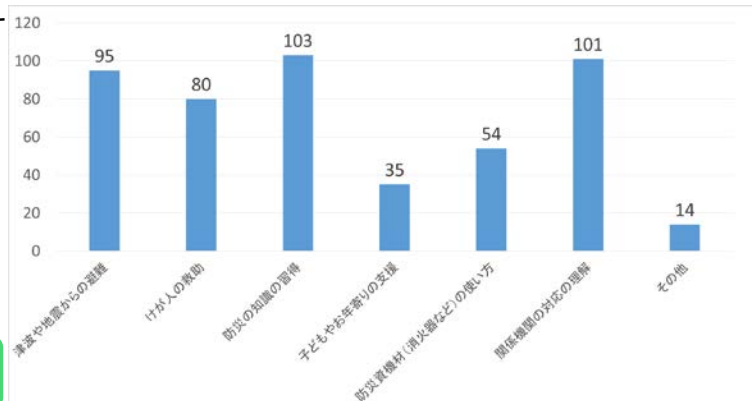
（回答数：289人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：289人）



問 訓練に参加して役に立ったことはどれですか？（複数回答あり）



訓練の評価

訓練当日は、メイン会場での各種訓練と市内の沿岸部全域での市民参加型を同時に開始し、4,936名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。また、訓練実施後、メイン会場参加者へのアンケート結果のほか、参加機関等によるふりかえり会議を実施し、今回の訓練の開催成果や、今後の防災・減災対策や防災訓練に向けた知見を整理した。

- 地域での津波避難訓練では、参加者それぞれが最寄りの高い場所や避難に要する時間を把握し、一人ひとりが津波避難の状況と課題を認識できた。
- メイン会場に多くの防災関係機関が集合して訓練を実施したことにより、公助としての各機関の役割を参加者全員が効果的に学習できた。
- メイン会場での各種訓練は、参加者に対する普及・啓発効果だけでなく、当該機関としての初動対応を実践する機会にもなり、それぞれの行動要領等が検証できた。

また、今後の訓練や防災対策に向けて、次のような点が課題として明らかとなった。

- 津波避難訓練については、今後、避難行動要支援者への対応を考えていく必要がある。
- メイン会場での訓練を通じて、参加機関からは、佐渡市の離島特性を踏まえ、市内の関係機関のさらなる連携の重要性が指摘された。今後の訓練では、複数機関の連携による対応を実践・検証しながら、マニュアルの作成や訓練の継続、地域防災計画等への反映が望ましい。
- メイン会場周辺は、船舶利用客等の不特定多数の滞在者も多く、今後はこうした不特定多数の人々の避難誘導等の対応を考えていく必要がある。

平成 28 年度 地震・津波防災訓練 【三重県松阪市】

実施報告書
(概要版)



三重県松阪市について

松阪市（まつさかし）は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は山地を境に奈良県に接し、南は多気郡、北は津市に接しています。人口は約163,900人、総面積約624km²のエリアに山と海の地域特性が数多くあります。

今回の訓練を行った港地区、松ヶ崎地区は、古くから開かれた漁港の漁村集落があり、2つの河川に挟まれた河口の低地が広がっています。

南海トラフ大地震の発生が現実味を帯びている昨今、松阪市では毎年、こうした地区ごとのまちづくり協議会を通じた住民参加型の防災訓練を展開しています。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月5日（土）午前8時に、震度6強の地震が発生。港地区、松ヶ崎地区では、高さ約3mの津波が予想される。松阪市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成28年11月5日（土）8：00～14：00
 - 第1部「住民参加型防災訓練」 8：00～10：30
津波避難訓練、災害対応法講習会
 - 第2部「一般参加者の体験防災訓練、防災啓発」 10：30～14：00
公助機関訓練、防災啓発
- 主催：内閣府、松阪市防災訓練実行委員会
- 参加者数：約1,750名（報道発表）
- 参加機関：港まちづくり協議会、松ヶ崎まちづくり協議会、港地区連合自治会、松ヶ崎地区連合自治会、港地区交通安全協会、松ヶ崎地区交通安全協会、港公民館、松阪市消防団、港小学校、松阪市ショッピングセンターマーム、陸上自衛隊久居駐屯地第33普通科連隊、松阪警察署、松阪地区広域消防組合、三重県防災航空隊、気象庁津地方气象台、各ライフライン企業・NPO法人等

当日の訓練内容

08:00～09:00 津波避難訓練、「マーム」内訓練

緊急地震速報を合図に、訓練実施対象地区の住民参加（自助）による津波避難訓練（各戸～避難場所「マーム屋上」）と並行し、「マーム」内での一般客、従業員が主体となった、シェイクアウト及び施設屋上への避難、避難人員報告の訓練を行った。

▼津波避難訓練（地区住民）



▼マーム内訓練



09:00～10:30 災害対応講習会

津波避難訓練終了と同時に、「マーム」施設（屋上）を活用して、防災ヘリ情報伝達や負傷者等の搬送、応急手当訓練、倒壊家屋対応講習などを実施。また特に、行政幹部職員等に対しては、BCPの必要性啓発等に係る防災講習会を実施した。

▼防災ヘリ情報伝達訓練



▼防災講習会



10:30～12:00 公助機関訓練

地区住民のみならず、避難場所が商業施設である状況を活かし、一般買い物客なども取り込みながら、屋外での各公助機関（消防、自衛隊、警察署）による、放水、被災者救出等に係るデモンストレーションを実施した。

▼消防隊放水訓練



▼自衛隊ヘリ救出訓練



10:30～14:00 防災啓発

公助機関訓練と並行して、「マーム」屋外の駐車場では、防災啓発に係る常設ブースの設置や各種車両の展示、「マーム」内でもパネル展示、東日本大震災のドキュメント（アニメ）の放映などを実施。最後には参加者に防災啓発グッズを提供し、訓練を終了した。

▼災害体験車両啓発



▼体験型防災訓練

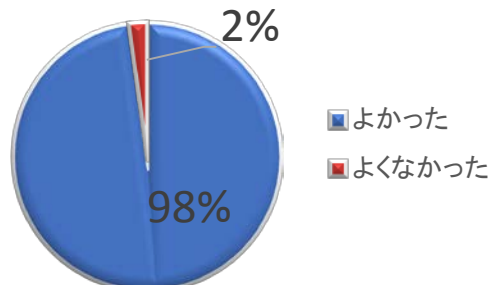


アンケート結果

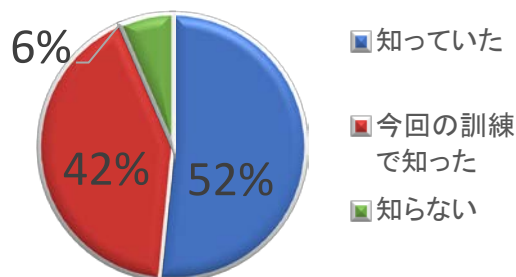
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

(回答数：地区住民93人)

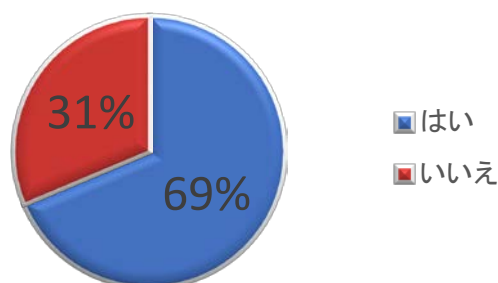


問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？(回答数：地区住民93人)



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を

準備していますか？(回答数：一般参加338人)



訓練の評価

訓練当日は晴天と温暖に恵まれ、避難場所として商業施設を設定したこともあり、総勢約1,750名の参加が得られ、それぞれが終始熱心かつ真剣な態度で避難訓練を行い、各種体験等にも参加した。

訓練後に防災・啓発グッズの配布と同時に参加者対象のアンケートを実施し、今後の防災・減災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。この結果、本訓練は以下のように評価できるものと考えられる。

- 地域住民からは「参加して良かった」という意見が98%と高い満足度であり、地震・津波避難における一連の行動を効果的に学ぶ機会となった。
 - 自主防災組織、地域住民、大型ショッピングセンター、防災関係者などが一体となった訓練実施により、各機関の連携等を深められた。
 - 特に行政職員に対して「業務継続計画(BCP)」に関する講座実施も盛り込まれ、行政としての災害対応のあり方について再考する機会が得られた。
- また、以下の課題が明らかとなり、今後の訓練企画で考慮が必要である。
- 今回訓練では商業施設屋上への「自動車用スロープ」の活用を想定したが、歩行の際の高齢者への負担や車いすの必要性が認識でき、高齢者や身体の不自由な方への避難補助に対する一層の配慮が必要である。
 - 参加者からは、地区内において防災行政無線が聞き取りにくい箇所がある等の指摘があったことから、既存設備の機能検証とともに、日常的な地震・津波避難に対する意識啓発なども充実していく必要がある。
 - 「住民参加型防災訓練」は特定地域を対象とした実施だったが、今後も市内各地区において、定常的な訓練開催が必要である。

平成 28 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【和歌山県広川町】

実施報告書
(概要版)



和歌山県広川町について

広川町(ひろがわちょう)は、和歌山県の中位に位置し、有田郡の最南端にあります。

人口は約7,300人、総面積約65km²のエリアに海、山、川と三拍子揃った美しい自然環境のなかで、四季を通じた磯釣りや温泉、文化財など豊富な観光資源をもつほか、柑橘栽培が盛んな農業、沿岸漁業や海産物加工、海洋レジャーから林業まで幅広い産業のある町です。

現在、広川町では、長期総合計画において「稲むらの火と笑顔のあるいきいきとしたまち 広川」をまちの将来像に掲げ、毎年11月5日に行われる津浪祭の後に実施する地震・津波防災訓練をはじめ、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月5日（土）午前10時20分に、南海トラフ巨大地震が発生。広川町では最大震度7を観測し、家屋の一部では倒壊等の被害が発生し、和歌山県全域に大津波警報が発表された。児童・生徒・園児及び町民らは地震発生による身体防御行動の後、津波避難場所への避難行動を開始した。
- 実施日時：平成28年11月5日（土）10：20～14：00
 - シェイクアウト訓練・列車緊急停止訓練 10：20～10：22
 - 津波避難訓練、安否確認・炊き出し訓練 10：22～10：50
 - 防災講演会（3箇所）・防災展示等 10：50～14：00
- 主催：内閣府、広川町
- 共催：西日本旅客鉄道株式会社
- 参加者数：1,492名（すべての訓練ののべ参加人数）
- 参加機関：広川町立子ども園・小学校・中学校、和歌山県立たちばな支援学校、ポップ保育園、広・山本・西広・唐尾の各地区住民、広川町消防団、広川町、湯浅警察署、気象庁和歌山地方気象台

当日の訓練内容

10:20～ シェイクアウト訓練

これまで授業時間中に実施してきた小中学校のシェイクアウト訓練は、初めて休憩時間中に行うことで在校時の地震発生への対応力の向上を図るとともに、各家庭等では地震発生時にとるべき防御行動を確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼ 同（休憩時間・校庭）



10:20～ 列車緊急停止・避難誘導訓練

地震発生のお知らせを受け列車が緊急停止し、乗客の自力避難を促すとともに、避難はしごを用いた要支援者の避難訓練を行った。乗務員は、車外に脱出した乗客に対して、最も近くの避難場所である広八幡神社への避難誘導を行った。

▼緊急停止・避難



▼津波避難誘導



10:22～ 避難訓練、安否確認・炊き出し訓練

沿岸部の小中学校等と住民が、9箇所の避難場所に避難する訓練を行うとともに、安否確認訓練を行った。また、広八幡避難場所、和歌山県立たちばな支援学校では炊き出し訓練を実施した。

▼避難訓練



▼安否確認訓練



10:50～ 小中学生対象の防災講演会、防災展示等

避難訓練終了後、広八幡神社境内で列車乗車時の避難方法を、南広小学校で地震・津波に関する講演を、それぞれ開催した。稲むらの火の館駐車場に起震車を展示するとともに、山間部で初めて土砂災害に関する講演を行うなど、町全域で防災意識の高揚を図って訓練を終了した。

▼列車避難講演会



▼土砂災害講演会



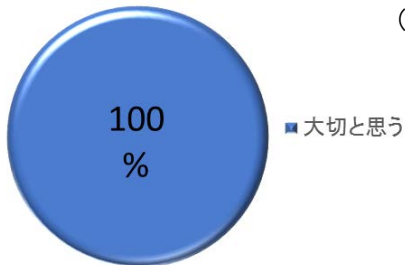
今後に向けた課題

アンケート結果

町立の小中学生の防災意識や津波避難対策への浸透状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

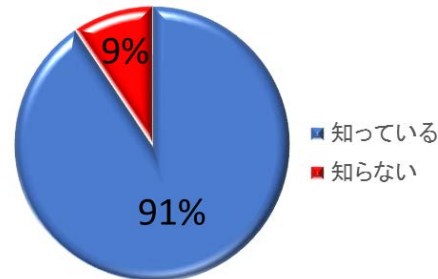
問 地震・津波避難訓練は大切だと思いますか？

(回答数：273人)



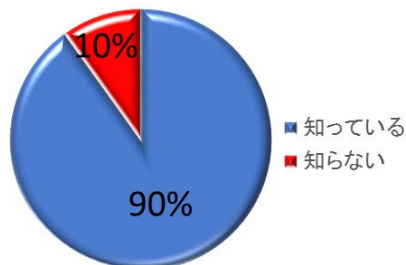
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？

(回答数：414人)



問 お家にいる時、登下校時の避難場所を知っていますか？

(回答数：414人)



訓練の評価

訓練当日は天候に恵まれ、児童、生徒、園児、地域の住民、列車乗客等あわせて1,492名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練等に取り組んだ。

町の教育委員会も協力し、訓練実施後に実施した小中学校生へのアンケート結果などから、本訓練は以下のように評価できるものであった。

○広川町での過去の災害のできごとに由来した従来の「津波防災の日」が平成27年12月の国連総会本会議で「世界津波の日」として制定されて初めての訓練実施であり、各方面から注目を集めるなか、参加者は普段どおりの訓練を沉着冷静に実施した。

○児童・生徒が「津波防災の日」を知っている割合は、2年前から1.2倍に伸長し、継続的な訓練や防災教育の効果が認められた。

○列車移動中の地震・津波への対応、山間部での土砂災害の備えなど、従来の訓練では想定できなかった条件での訓練を実施でき、町の総合的な防災対策に大きく貢献した。

一方で、次のような課題があげられる。

- 町全域に自主防災組織が設立し、組織ごとの訓練が熱心に取り組まれているものの、大規模災害が発生し、関係者が一斉に避難する状況の想定や、対応策の検討、合同訓練なども進めていく必要がある。
- 高齢化が進むなか、避難途中に転倒等で怪我を負う可能性もあり、応急手当、共同搬送など、共助の視点を加味した訓練に発展させる必要がある。
- 漁業で取組まれる釣り場への渡しをはじめ、観光・レジャー客への対応のための訓練を考えていく必要がある。

平成 28 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【広島県坂町】

実施報告書
(概要版)



広島県坂町について

坂町（さかちょう）は、広島市と呉市との間に位置し、美しい緑に囲まれ、穏やかな瀬戸内海に面した豊かな自然環境に恵まれています。

人口は13,096人、町域面積15.69km²で、そのうち約50%が山林で占めています。

健康でかつ心豊かな生活を目指す「悠々ウォーキングのまち宣言」があります。

現在、坂町では、「青い海・緑の山・キラリと光る未来へーとともに歩む坂町ー」を町の長期総合計画のまちづくりのテーマに掲げ取組を行っています。

また、総合防災訓練や大雨土砂災害・地震津波災害の避難訓練を町全体で継続的に実施する等、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：10月30日（日）午前8時30分に、南海トラフ巨大地震が発生し、坂町において震度5強の揺れを観測。町の沿岸部では、高さ約5mの津波の到達が予想されることから、坂町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対しJ-ALERTによる町内緊急放送等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成28年10月30日（日）8：30～11：30

第1部（情報伝達訓練、シェイクアウト訓練、8：30～9：30
津波避難訓練）

第2部 災害時安否確認訓練 9：30～10：00
避難所開設訓練、救急教室、 10：10～11：30
救援物資の仕分け訓練

※第2部のみ、町内3か所の避難所にて同時に実施

■主催：内閣府、坂町

■参加者数：2,673人（第1部）、840人（第2部）（※参加機関を含む。）

■参加機関：町内16地区の住民福祉協議会、坂小学校、横浜小学校、小屋浦小学校、坂中学校、坂町内企業、坂町消防団、広島市消防局、海田警察署、広島県警察学校、気象庁広島地方気象台

当日の訓練内容

08:30～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練【第1部】

坂町全域を対象に実施している避難訓練に基づき実施した。

地震の発生により、各自の居場所において地震の揺れから身を守る安全確保行動を1分程度実施し、その後、最寄りの避難場所へ移動し、災害時の避難行動について確認を行った。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



09:30～ 災害時安否確認訓練【第2部】

避難場所から町内3つの避難所（サンスターホール、坂中学校、小屋浦小学校）にて、避難した住民を受付する訓練（災害時安否確認）を実施した。

併せて、会場内に気象台が作成した地震や津波に関連するパネルや防災用品等を設置し、参加者への普及・啓発を図った。

▼避難所の開設（受付）



▼気象台の展示品



10:10～ 避難所開設訓練、救急教室 救援物資の仕分け訓練（防災・啓発グッズの提供）【第2部】

各会場にて、被災後の避難生活に必要な道具や被災者の役割等を学ぶために、段ボールを用いた参加・実演型の避難所開設訓練とともに、消防の協力を得て、災害時の負傷等の際の応急救護手法を学ぶ救急教室を実施した。

また、訓練で準備した啓発資材等を救援物資と見立てて、町職員と中学校生徒を中心に、様々な物資を仕分け、参加者に配布する訓練を実施した。

訓練全体を通じて、参加者が津波災害時の一連の行動を体感・学習して訓練を終了した。

▼避難所開設訓練



▼救急教室



▼救援物資の仕分け



▼救援物資の提供

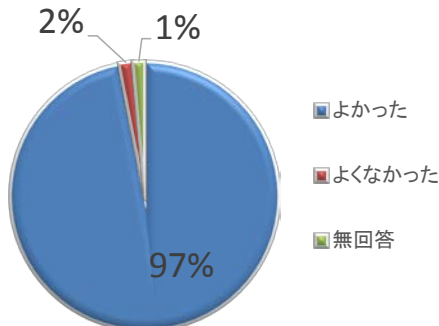


アンケート結果

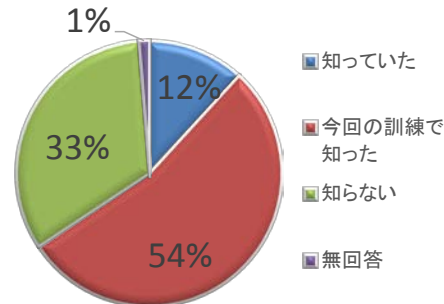
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：431人)

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

(回答数：431人)

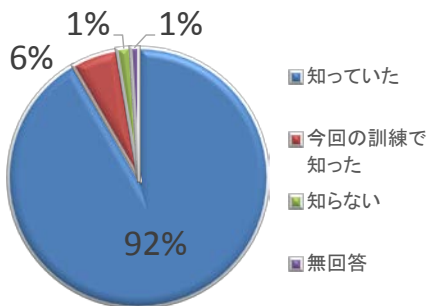


問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？(回答数：431人)



問 自宅・学校からの避難経路を知っていますか？

(回答数：431人)



訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、地域住民や児童・生徒等を合わせて2,673名が第1部の訓練に、840名が第2部の訓練に参加し、終始熱心かつ真剣な態度で訓練等に取り組んだ。

訓練実施後、地区の代表者や小中学生を対象にアンケートを実施し、その結果から、本訓練は以下のように評価できる。

- 今回は自助・共助の強化を念頭に、「住民が主体となって取り組む訓練」として構築した。準備過程では、行政のみでなく町内の多くの団体と協力して関係機関会議を開催し、今後につながる関係性の構築ができた。
- 訓練内容は、地震発生時の身体防御から津波避難、被災後の避難所開設といった一連の流れを体験する形となり、災害時の行動をわかりやすく学習できる機会となった。
- 地域住民や児童・生徒の意見から、「参加してよかった」「またやりたい」などの声もあり、多くの満足度を得ることができた。

一方で、次のような課題があげられる。

- 第2部の各種訓練については、初実施でもあり町職員により司会進行を行ったが、各学校から「児童や生徒に深く関わらせたい、学ばせてほしい」との意見もあった。今後の訓練においては、多様な人々が主体的に運営・参加できる場面や機会を積極的に設けていくことが必要である。
- 坂町ではこれまでも継続的に防災訓練を実施しており、今回新たに実施した内容を踏まえ、徐々にステップアップして工夫を行うことで、多様な主体の連携による対応など災害時の実効性を高めていくことが必要である。

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【徳島県松茂町】

実施報告書 (概要版)



徳島県松茂町について

松茂町は、徳島県の東部にあり、三方が二市一郡に囲まれ、町の東側は海岸線となっています。人口は約15,300人、総面積約14.24km²、町の大部分は旧吉野川と今切川の肥沃な三角州が占めています。

産業は昔から盛んに行われている水産業や農業のほか、工業団地に多くの企業が立地しています。また、町内には徳島県の空の玄関として徳島空港、陸の玄関として高速バスのターミナルを擁するなど徳島県の交通の要所として、人の往来も盛んです。

そのような松茂町も、南海トラフ巨大地震の際は、6mを超える津波により町の広範囲が水没することが予想されるため、津波防災センターの建設や津波避難ビルの拡充など様々な防災・減災対策に取り組んでいます。



地図出展：国土地理院地

訓練概要

■訓練想定：11月5日午前9時に、南海トラフを震源とするM9.0の巨大地震が発生、松茂町では震度6強の揺れを記録、その3分後に大津波警報が発表された。最大6mの津波の到達が予想されることから、町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、防災行政無線等により町内全域に避難指示を発令した。

■実施日時：平成28年11月5日（土）9：00～12：00

シェイクアウト訓練、津波避難訓練	9：00～ 9：45
安否確認訓練	9：00～ 9：45
徳島地方気象台防災講座	9：45～10：00
避難所運営訓練、防災基礎訓練	10：00～11：40
炊き出し訓練	10：30～11：40
主催者挨拶	10：40～12：00

■主 催：内閣府、松茂町

■参加者数：477名（※松茂町職員、防災関係機関等を含む）

■参加機関：各地区自主防災会、気象台、警察、消防、陸上自衛隊、海上自衛隊、社会福祉協議会、日赤奉仕団、幼稚園（3園）、小学校（1校）、徳島防災ネットワーク

当日の訓練内容

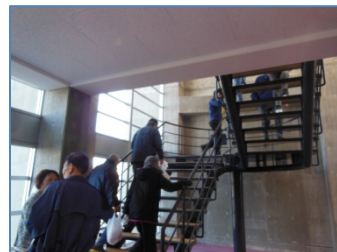
09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練を喜来・松茂、長原幼稚園、長原小学校で、より高いところへ避難する津波避難訓練を4箇所の津波避難施設で行い、避難行動要支援者も含め発災から津波襲来までの避難行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:00～ 徳島地方気象台による防災講座

津波避難訓練後は、主会場の松茂総合体育館で周辺地域の自主防災会、町民を対象に、徳島地方気象台による防災講座「地震や津波から命を守るために」が行い、緊急地震速報の仕組み、海岸近くで緊急地震速報が発表された場合の行動などについて知識を深めた。

▼防災講座



10:15～ 避難所運営訓練・防災基礎訓練

主会場の避難所運営訓練では、間仕切り等を使用した居住空間の作成、マンホールトイレの設置など避難所運営に必要な技術を習得した。また、防災基礎訓練では、起震車体験、普通救命講座、災害用伝言ダイヤル、ほしいもののリスト入力体験、耐震性水槽給水訓練などの災害時に必要な基礎的防災知識を習得した。

▼避難所運営訓練



▼防災基礎訓練



10:30～ 炊き出し訓練、物資配給訓練

主会場において海上自衛隊（カレー）、日赤奉仕団（豚汁）、松茂町役場（アルファ化米）による炊き出しと社会福祉協議会、徳島防災ネットワークによる災害時の配食要領を訓練した。また、物資配給訓練として備蓄食料（長期保存可能なビスケット）の配給を行った。

▼炊き出し訓練



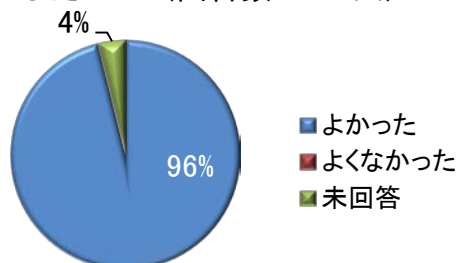
▼物資配給訓練



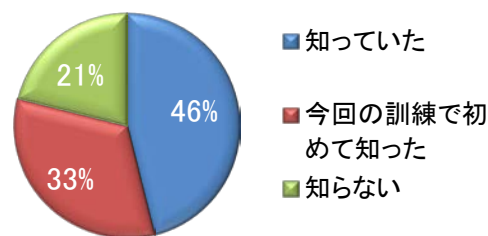
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：128人）

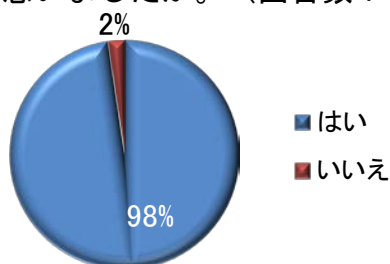
問 地震・津波防災訓練に参加してどう
思いましたか？（回答数：128人）



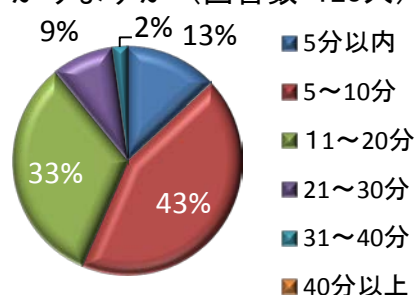
問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数：128人）



問 地震が来たら、まず高いところへ逃げ
ようと思いましたか。（回答数：128人）



問 地震発生から避難まで何分くらい
かかりますか（回答数：128人）



訓練の評価

訓練当日は、快晴・温暖な天候に恵まれ、幼稚園・小学校、地域住民、役場職員や防災関係機関等477名が、終始、和やかな雰囲気の中にも、シェイクアウト訓練、津波避難訓練をはじめとする各種訓練に熱心かつ真剣に取り組んでいた。

アンケート結果では、住民の訓練参加に対する評価は「よかった」が96%、「地震が来たらまず高いところへ逃げようと思う」が98%などの結果からも訓練の目的を十分に達成でき、また当初予定にない長原地区の避難行動要支援者が津波避難訓練に自主的に参加するなど、訓練に対する関心の高さを確認することができた。

全体として良好な結果に終わった訓練であったが、今後の訓練、津波避難への反映事項としては以下のような課題が認識された。

●垂直避難訓練の検討

町全体が平坦で海拔が低い松茂町は、発災後40分で到達する巨大津波により町内ほぼ全域の浸水が予想されることから、今回の訓練のように、自宅や学校からの避難訓練のほか、通学途中など、どこにいても最寄りの津波避難ビルへ避難できるような訓練や津波避難行動の啓発が必要である。

●要配慮者の避難行動支援

病院や介護施設における患者や入居者の垂直避難支援要領の訓練が必要である。

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【高知県黒潮町】

実施報告書
(概要版)



高知県黒潮町について

黒潮町(くろしおちょう)は、平成18年に高知県幡多郡「大方町(おおがたちょう)」「佐賀町(さがちょう)」が合併し、誕生しました。高知県の中でも西南に位置し、人口は約11,700人、総面積は約188km²です。

南国特有の温暖な気候を活かして、大方地域では施設園芸や花卉、水稻を中心に栽培が行われ農業が盛んです。また、佐賀地域ではカツオ一本釣り漁業や、近年は完全天日塩も代表的な特産物となっています。

このような黒潮町も、南海トラフ巨大地震の際は、最大津波高が全国で最も高い34mと想定されており、『あきらめない。揺れたら逃げる。より速く、より安全なところへ。』を全町民が共有する合言葉に、犠牲者ゼロを目指した取り組みを進めています。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月5日午後7時に、南海トラフを震源とするM9.1の巨大地震が発生、黒潮町では最大で震度7の揺れを記録、地震発生直後より大津波警報が発表され、南部沿岸地域では15分後に15m以上の津波の到達が予想されることから、町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、防災行政無線等により町内全域に避難を呼びかけた。

■実施日時：平成28年11月5日（土）13:00～20:00

地区防災計画シンポジウム

13:00～17:40

地震・津波避難訓練

19:00～20:00

シェイクアウト訓練

夜間津波避難訓練

情報伝達訓練

避難所開設訓練

安否確認訓練

■主 催：内閣府、黒潮町、黒潮町自主防災会（後援：高知県）

■参加者数：4,038名

■参加機関：警察、消防、消防団等

当日の訓練内容

13:00～17:40 地区防災計画シンポジウム

自主防災会、学校等からの津波対策に関する実践報告や「世界津波の日と地域の実践をつなぐ」をテーマに有識者を招いたパネルディスカッションが行われ、積極的な意見交換がなされた。

▼地区防災計画シンポジウム



19:00～19:03 シェイクアウト訓練

告知端末や防災行政無線による「緊急地震速報」の放送の後、自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練が行われた。

▼シェイクアウト訓練

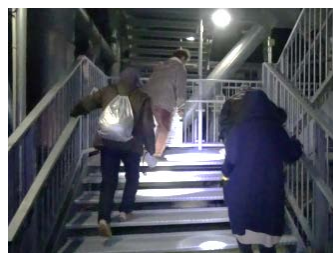


19:03～ 夜間津波避難訓練・避難所開設訓練

津波浸水40地区の町民は、速やかに地区防災計画で示された避難場所、津波避難タワーへ、懐中電灯の明かりを頼りに避難訓練が行われた。

また、浸水地域以外の21地区の町民は、浸水地区の避難町民を受け入れるべく、避難所開設訓練として、受け入れ準備が行われた。

▼津波避難訓練



▼避難所開設訓練



19:00～ 情報伝達・安否確認訓練

各避難場所、津波避難タワー、避難所から、町の災害対策本部に衛星携帯電話、消防無線等により、20:06にすべての避難が完了した報告がなされ、今回の訓練参加者4,038名の町民が無事に避難したことを確認した。

▼情報伝達・安否確認訓練



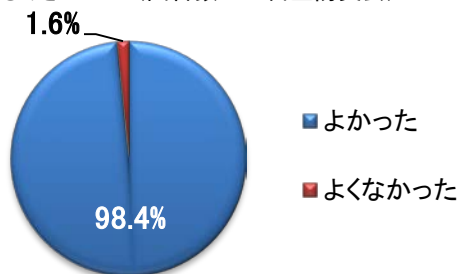
▼町災害対策本部



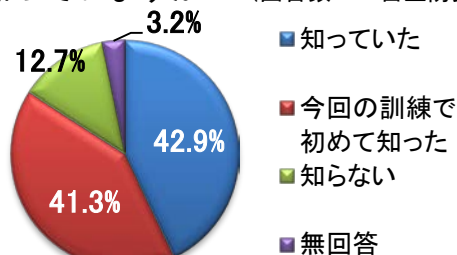
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：61自主防災会（浸水地域40自主防災会）

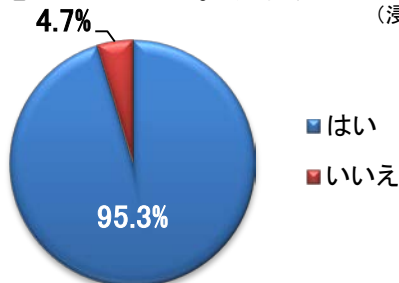
問 地震・津波防災訓練に参加してどう
思いましたか？（回答数：61自主防災会）



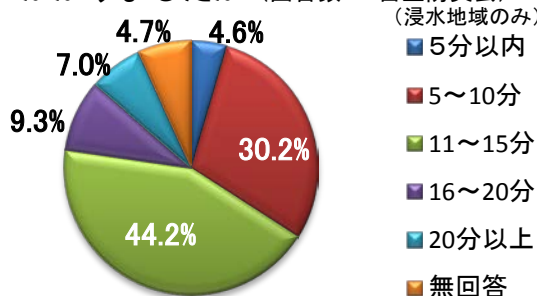
問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数：61自主防災会）



問 地震が来たら、まず高いところへ逃げ
ようと思いましたか。（回答数：40自主防災会）
（浸水地域のみ）



問 地震発生から避難まで何分くらい
かかりましたか（回答数：40自主防災会）
（浸水地域のみ）



訓練の評価

初めての全町挙げて夜間の津波避難訓練実施にも関わらず、毎年実施している昼間での訓練で過去最も多く参加した約4,400名に迫る4,038名の参加があり、町民の訓練の重要性の理解と、防災意識の高さが分かる。これは、これまで行政と町民が官民共同で進めてきた防災対策の効果の表れと言える。

訓練終了時の黒潮町長の訓示や地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。

この結果、「防災訓練に参加してよかった」、「昼間避難との違いを認識できた」、「夜間避難のために準備しておくべきことが分かった」という評価の一方で、次のような課題があることが認識された。

- 今回は初めての夜間訓練であることから、安全を重視して避難計画に指定されている避難場所と異なる訓練用に示された避難場所に避難した。今後は、計画に示された避難場所へ昼夜間を問わず、安全に避難できるように訓練を重ねることが重要である。
- 昼間では気にならない避難経路の溝や小さな段差が、夜間では避難の支障になる。夜間避難を想定し、避難経路上の避難に支障となる箇所については事前に調査し、避難路マップ等に表記しておく必要がある。

平成28年度内閣府 地震・津波防災訓練 【福岡県芦屋町】

実施報告書
(概要版)



福岡県芦屋町について

芦屋町は、福岡県の北端に位置し、東西4.4km、南北5.3km、行政面積11.6km²の町域です。航空自衛隊芦屋基地と町のほぼ中央を流れる一級河川遠賀川が町域の3分の1を占めております。

芦屋町の特徴としてまずあげられるのが、美しく豊かな自然です。特に玄海国立公園を望む海岸線の美しさにあります。遠賀川をはさんだ東側には千畳敷や奇岩が連なる海岸線、西側は白い砂浜の広がる海岸線と変化に富んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月2日午前10時に、震源(西山断層(延長))におけるシミュレーションとするM7.3の大規模な地震が発生し、芦屋町では最大で震度6弱を記録した。地震発生直後より、大津波警報が発表され、芦屋町の沿岸地域では、17分後に、4m程度の津波が押し寄せ、家屋流失や浸水等の被害が発生した。芦屋町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し、防災行政無線により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成28年11月2日(水) 10:00~12:00

シェイクアウト訓練	10:00~10:05
津波避難訓練	10:05~10:30
情報伝達訓練	10:00~10:30
災害対策本部設置訓練	10:00~12:00
防災講話	11:20~11:50

■主催：内閣府、芦屋町

■参加者数：約1,000名

■参加機関：地区自主防災会、小学校、気象台、陸上自衛隊、航空自衛隊、海上保安庁、警察、消防、芦屋町消防団、芦屋女性防火・防災クラブ、NTT西日本等

訓練報告

当日の訓練内容

10:00～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼芦屋東小学校



▼山鹿小学校



10:05～ 津波避難訓練

大津波警報が発表されたとの想定で、町役場からの防災行政無線等による避難の呼びかけに応じ、居住地域及び小学校から津波指定避難場所への避難を行い大津波警報等の伝達体制と沿岸（津波浸水予想）地域からの避難誘導要領について確認・検証した。

▼芦屋小学校



▼地区自主防災会



10:00～ 情報伝達訓練・災対本部訓練

大規模災害発生時等における情報伝達の手段・要領について、防災無線、避難場所と災害対策本部、ヘリによる映像伝送等実際の行動により確認できた。また、災害対策本部設置訓練を行い運営要領等を情報の集約・整理、適時な簡明な報告等実際の行動により本部長の意思決定に必要な情報収集について確認した。

▼ヘリ映像伝送



▼災害対策本部



10:30～12:30 車両展示・防災講話

大規模災害を経験したことのない町職員、地域住民及び児童等に対し、消防や気象台による防災講話などを実施し、震災時の体験・教訓を伝承し、住民の防災意識の向上を図った。

▼車両等展示



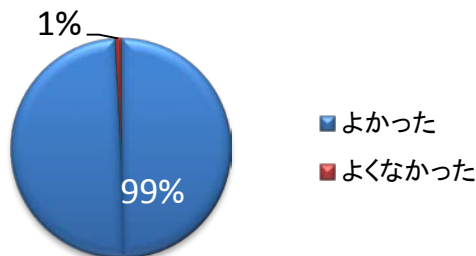
▼防災講話



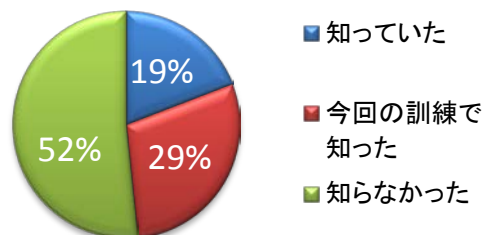
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：277人）

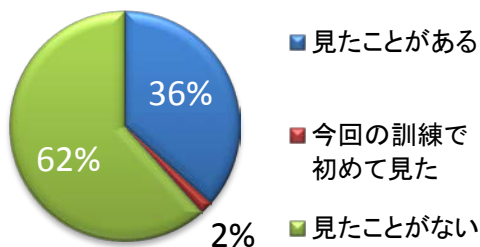
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：272人）



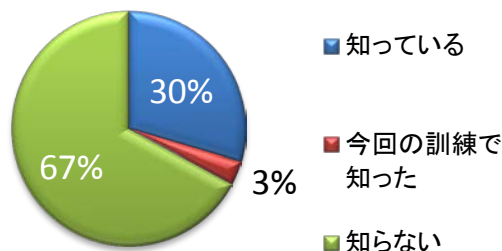
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：134人）



問 津波ハザードマップを見たことがありますか。（回答数：276人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか。（回答数：271人）



訓練の評価

訓練当日は、快晴・温暖な天候に恵まれ、小学校、地区長会を始め防災関係機関が参加した。特に航空自衛隊芦屋基地、若松海上保安部、陸上自衛隊、福岡県警など官民19団体計約1000人が災害時の関係機関の連携体制や住民の避難手順などを確認し一丸となって各訓練に終始熱心かつ真剣に取り組んでいた。

訓練実施後、内閣府・芦屋町長の挨拶・訓練講評、参加者のアンケート結果を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう整理した。この結果、99%の方が「訓練に参加してよかった」と回答している一方で、次のような課題があることが認識された。

- 津波ハザードマップを約6割の方が見たことが無い、自宅からの津波避難経路を約7割の方が知らないと回答しており更なる町民の防災意識の高揚を図るとともに引き続き啓蒙していかなければならない。
- 津波避難訓練では、役場からの防災情報が「聞こえづらい」と参加した先生7割の回答であり。ハード面の確認や検討が必要と思われる。